

# たかといちどいだよ

令和5年6月 第92号  
たかといちどい保育園

景の裏に ひぐれの暗さ かたつむり  
— 加藤 楸 郁 —

青梅に 手をかけて寝る 蛙哉  
— 小林 一 茶 —

近畿地方も梅雨入りしました。平年より8日早く、昨年度より15日も早い梅雨入りです。長雨で心の晴れない日が続くのでしょうか。長靴で水たまりの中をじゃぶじゃぶ歩く。傘をくるくる回してしぶきを飛ばす。子どもはどんな状況でもあそびにできる力をもっています。

みなさんが「梅雨」から思い浮かべる小動物は……。そんなことを思いながら、思い至ったのが「かたつむり」であり、「カエル」です。カエルも、かたつむりも一緒に遊ぶ友達でした。カエルに触れることができる子が少なくなっています。かたつむりの実物を目にしたことがない子もいます。カエルやかたつむりに触れることができなくても、せめて興味を示すぐらいはあってもいいのかなと思うのは、現代には通じないことなのではないでしょうか。身近にある様々な自然に興味・関心を持ち、バーチャルではなく、実物を見、実物に触れ、そこから不思議さや命の輝きを感じ取り、感性を磨いていってほしいと思います。

さて、5月19日に予定していた「親子遠足」はあいにくの雨のため、須磨離宮公園に行くことはできませんでした。園舎内でのふれあい行事になりましたが、その分、密度の濃い時間を過ごしていただけたのではないのでしょうか。ある保護者から「近いうちにまた計画していただけますか」という声をいただいたということ、後日、職員から聞きました。新型コロナウイルス感染症が5類に格下げされたことで、園外保育やキッズとの合同での活動を徐々にではありますが再開していきたいと思っています。6月9日には、ゆめ組の子どもたちが弁当をもって明石天文科学館に行きます。今年は水あそび、プールあそびも思いきりできそうです。6月26日にプール開きを予定しています。

6月も子どもたちがしっかりと遊び込める月にしていきたいと考えています。子どもたちの笑顔がもっともっと輝いていくよう、応援よろしく願いいたします。



## 6月の予定

5歳児交流会 (ゆめ)	1日 (木)	歯磨き指導 (ゆめ)	2日 (金)
避難訓練	6日 (火)	誕生会	7日 (水)
園外保育 (ゆめ)	9日 (金)	救急訓練	12日 (月)
内科健診	15日 (木)	発育測定	21日 (水) ~ 23日 (金)
歯科健診	22日 (木)	尿検査回収日	23日 (金)・26日 (月)
プール開き	26日 (月)	体育あそび	8日 (木)・29日 (木)





わんぱくおみ



子どもたちは食べるのが大好き！ 年度当初は、椅子に座ることや食べることを嫌がっていた子どもたちも、「大丈夫大丈夫。今日は抱っこして食べようね」「美味しそうだね」「今日は、お魚があるよ。一緒に食べようね」などと、子どもの様子を見ながら優しく声をかけ関わることで、最近では、給食が運ばれてくると「まんま、まんま」と嬉しそうに声を出して、喜んで食べるようになりました。「おててパッチン。いただきます。」と保育士が言うと一緒に手を合わせて真似をしている子どももいます。手づかみで食べることやコップを持つことにも興味をもち、食事の時間を楽しんでいます。

保育室にも慣れてきてよく遊ぶようになってきました。子どもたちの思いを十分に受けとめ、一人ひとりのペースを大切にしながらより遊びが楽しめるようにしていきます。



コップを持てるようになりました



ミルクごくごく  
おいしいな



今月のねらい：保育士と関わって遊ぶことを楽しむ



わんぱくおみ



体を動かして遊ぶことが大好きなひかりぐみの子どもたち。「お外に行くよ～」と声を掛けると大喜びで集まり、遊びに行く準備をします。鉄棒やジャングラミングなどの遊具に興味をもってぶらーんとぶら下がったり、友だちと一緒に滑り台で遊んだりして楽しむ姿が見られました。これからも、のびのびと体を動かせるような様々な遊びに誘いかけていきます。また、気温が高くなってくるため、しっかりと水分や休息がとれるよう配慮し、元気いっぱい過ごせるようにしていきます。

今月は、ズボンの着脱や手洗いなど様々な身の回りのことに丁寧に誘いかけ、難しいところは一緒に行うことで、自分でできる喜びを感じながら興味をもって取り組めるようにしていきます。



たのしいね♪

ぶらさがれたよ



今月のねらい：保育士に見守られながら、自分で着脱や手洗いをしようとする



わんぱくおみ



5月は、楽器遊びをしました。初めて見る楽器に戸惑いながらも、友だちや保育士の姿を見て興味をもち、歌いながら鳴らすことを楽しんでいました。また、えんどうやきぬさやなどの豆くらべもしました。さわってみたり、においをかいでみたりして、興味津々。「つめたいね」「まるくてころころ」「おまめのにおいがする」など、感じたことや思ったことを言葉にして伝えていました。給食に出た時は、「おまめいっしょだよ」と言って、嬉しそうに教えてくれました。これからも、子どもの発見や驚きを受け止めて、共感することで、自分の思いを言葉や仕草で表現できる機会を増やしていきます。

今月は、苦手な食べ物も少しずつ食べられるように、給食の献立の食材を絵本やイラストで身近に感じられるようにしていきます。好き嫌いなく何でも食べて元気に過ごしていけるようにしたいと思います。



たのしいよ！



興味津々！

今月のねらい：苦手な物も少しずつ食べてみようとする



### きりんグループ



食育の時間に食事の際の様々なマナーについて考えたこともあり、一人ひとりがマナーを意識できるようになってきました。「椅子の座り方はどうだったかな」「お皿はどうやって持つのかな」と問いかけると、子どもたち自身で気づき、友だちに「こうするんだよ」と知らせる姿も見られました。今後も正しいマナーについて丁寧に知らせたり、一緒に考える時間を作ったりし、習慣づくようにその都度声を掛けながら関わっていきたいと思います。

今月は、ルールのある遊びやごっこ遊びを取り入れ、友だちと思いを伝え合いアイデアを出しながら、のびのびと表現することを楽しめるようにしていきます。

今月のねらい：思いを伝えながら表現する楽しさを味わう



もちかたあってる？



### うさぎグループ



先月は、リレーを楽しみました。2チームに分かれてみんなでチーム名を考える時間を作ったり、応援されるとどんな気持ちになるか話をしたりすると、「〇〇チームがんばれ〜！」「まけるな〜」と自分のチームを応援しながらリレーを楽しんでいました。今後も、友だちと一緒に力を合わせて遊ぶ楽しさを味わい、関わりが深まっていくように、気持ちを代弁したり、思いに共感したりしていきます。

今月は、歯磨きの大切さや丁寧な磨き方を伝え、しっかりと歯磨きができるようにしていきます。

今月のねらい：歯の正しい磨き方を知り、丁寧に取り組む



がんばるぞ〜



じゃんけんぽん



### ぞうグループ



先月は、トイレのスリッパをきれいにそろえるよう、くり返し話をしました。そろえることが目的ではなく、次の人が履きやすいようにと思いやりの心をもてるよう、なぜそろえる必要があるのか理由まで伝えました。子どもからは「つぎのひとのため！」と、気遣いの言葉も出てくるようになりました。今後も習慣づくよう見守っていきます。

今月は、異年齢で一つのことに取り組むことができるよう、みんなで手作り積み木を作ります。必要な物を準備し、子ども同士で協力しながら楽しめる環境を整えていきます。

きれいにそろえるよ



つぎのひとのため！



しょうどくもしよう



今月のねらい：友だちや保育士と協力して、一つのことに取り組む

## きいんグループ

### 《季節の歌紹介》

4月5月に幼児グループでよく歌っていた「ちっちゃんいちご」は子どもたちの大好きな歌です。室内で好きな遊びをしている際も、友だちと楽しそうに口ずさむ微笑ましい姿が見られました。



友だちと協力しながら、折り紙でたくさんのいちごを作り、きりんグループの保育室にいちご畑を完成させました。「〇〇ちゃん、おりかたをおしえてあげようか」と優しく教えている年上の子どもたちの姿も見られました。1回作るとすぐに作り方を覚え、もう1個、もう1個…！と気が付けばたくさんのいちごが部屋いっぱいになって嬉しそうな子どもたちでした。



### ♪ちっちゃんいちご

1. ちっちゃんいちごが いいました  
まだまだぼくたち あおいけど  
おひさまいっぱい あびて  
まっかっか まっかっか  
まっかっかになるぞ
2. ちっちゃんいちごが がんばって  
ファイトだぼくたち げんきよく  
あおぞらたいそう いちにさん  
まっかっか まっかっか  
まっかっかになーった



### 《 漫画家を目指して 》



今は保育士という仕事をしている私ですが、実は「保育士になろう」と決断したのは24歳を過ぎてからでした。ではそれまでは一体何をしていたかということ、実は「漫画家」を目指して日々奮闘していたのです。保育士という夢は、子どもの頃からの漠然とした夢ではあったものの、中学生の頃には「漫画家」という夢が、保育士以上に大きくなっていました。高校を卒業してからは漫画家養成の専門学校に通い、画力や表現力を磨く日々を過ごします。在学中に何本もの漫画を完成させ、その都度東京の出版社へ赴きました。そんな努力もあってか、何作かは賞をいただき、作中の1カットや名前が誌面に載ったり、数十ページの作品がネットに掲載されたりということもありました。専門学校卒業後は、漫画の出版社が東京にしかないということで埼玉に移り住み、仕事をこなしながら漫画を描いていました。

埼玉に移り住んでからというもの、なかなか仕事が忙しく漫画の手が進まない日々。このまま漫画家を目指し続けて、果たして成功するだろうか…気付けば年齢も25歳手前と、焦りや悩み、様々な感情が渦巻き葛藤していました。そんな中、悩み抜いた末に出した決断は、子どもの頃からの夢に立ち返り保育士を目指すことでした。その後資格も何ももっていない私は、積み立てていた貯金や漫画でいただいた賞金を切り崩し、保育士養成の専門学校へ通うこととなります。

漫画家の道からは外れる形となりましたが、絵を描くスキルは保育士になった今でも、様々な場面で役に立つため重宝しています。これからもフル活用していきたいと思っています。

余談ではありますが、専門学校時代の同期と、埼玉での職場の先輩は、今もなお現役の漫画家として様々な誌面や媒体で作品を作り続け活躍しています。そんな仲間と切磋琢磨できた日々は、今でも私の誇りと少しの自慢です。作品が気になる方はぜひ伊藤まで。

伊藤 愛朗

